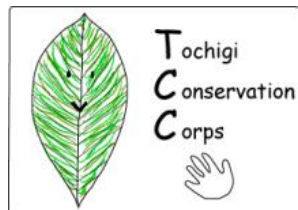


特定非営利活動法人
トチギ環境未来基地

平成 27 年度

(平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日)

事業計画書



平成 27 年度 重要方針

設立から 7 年目を迎え既存の事業における多様なボランティアを受け入れ、質の高い環境保全活動のさらなる充実を図るほか、以下を重要方針とし業務を行う。

1. 若者の力を森づくりにつなげる、を強化する。若者（後継者）不足に悩む団体への派遣システムも確立。

森林ボランティア活動も全国的に数が増え一定の役割を担うようになったが、多くの団体が若者、後継者不足に苦慮。それに対して当団体が貢献できることの一つに、若者の森づくりボランティアを現場での活動を育み、各団体にマッチングするという方法がある。平成 27 年度はこれを形にすべく、若者の森づくりボランティアの数を増やし、トレーニングを行い、団体へつなげる一連の仕組みを整える。

2. 森林の付加価値や役割を高める、「森 × テーマ事業」を多様化、確立する。

森林をこれからも守り、育てていくためには、森林の持つ、経済的価値、公益的な価値を高めることに加えて、周辺領域でできることを形にし、付加価値を高めていくことが重要になる。森林を切り口とした社会的課題の改善や、森林とつながりが薄かった人を森と上手につなぐような活動を切り拓いていく。「若者支援と森林」、「教育と森林」、「福祉と森林」の活動を行う。

3. ファンドレイズを強化し、多くの人の支援によりミッションを達成する団体となるための、寄付メニューの充実を図る

寄付の額も、メニューも年を重ねるごとに増えてきた。しかし、まだまだ安定的とは程遠く、さらなる洗練と多様化が必要である。森づくりをしたいけれど現場になかなか行けない人の想いを寄付に、若者の活動を応援したいけれど直接的にはなかなか、といった思いを寄付にできるような寄付メニューを充実させていく。また、カフェや有機野菜（ロハス系？）といった森づくりや環境保全活動との親和性の高い業界との連携した寄付メニューも生み出す。

4. 会員の増加をはかる。会員の協力を広げるとともに、会員の自主活動も始める。

これまで会員との関わり方を一新し、会員が参加しやすい活動の充実や、会員が自主的に行える活動もつくっていく。職員がほぼすべてを企画、運営するから、職員と会員で活動をつくっていくに舵をきり、活動自体を充実させるとともに、会員増加にもつなげる。

5・各事業、作業フィールドの可視化をはかる。

各事業と作業フィールドのつながりや目的を改めて可視化し、イメージ図を作成する。可視化することで、活動の意義や成果がわかりやすく伝わり、それによって新たな共感を生み、支援者を増やすことができる。具体的には、年度後半までにイメージ図を完成させ、ホームページやチラシ等へのせる。

数 値 目 標

ボランティアの数	3, 000人（栃木 1,800人、海岸 1,200人）
整備面積	竹林 3.0ha 里山 5.0ha 海岸林 2.0ha
寄付額	2,500,000円（苗木 150万円、栃木 100万円）
年度末会員数	50人

平成 27 年度 事業一覧

1. 若者の社会貢献活動拠点づくり事業

2. 若者のチームによる長期間の森林、自然、地域保全活動（Tochigi Conservation Corps）事業

- ① Conservation Corps プログラム 2015 春（第 12 期）
- ② Conservation Corps プログラム 2015 秋（第 13 期）

3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業

- ① 森林山村多面的機能発揮対策事業
- ② 幼稚園や福祉施設での森づくりと体験イベント実施
- ③ 企業ボランティアの受け入れ事業
- ④ 親子向け、自然活動の企画運営
- ⑤ 竹林整備と竹材ワークショップの実施 …… 緑と水の森林ファンド助成事業

4. 地域・環境活動リーダーの育成事業

- ① 若者森づくりボランティア派遣プログラム（New） …… 地球環境基金助成事業

5. 災害からの復旧・復興に関する事業

- ① 海岸林の清掃、整備活動と、再生に向けた「苗木 for いわき」プロジェクト事業
…… 一部ユースチャレンジ助成事業

6. バイオマス資源の活用推進に関する事業

- ① 木工クラフト教室、木工クラフトを活用した応援会員の獲得

7. 若者自立支援団体との連携による、人と緑を育む森づくり事業

- ① 若者自立支援団体の日帰り活動の企画運営（しごとや、センター）
- ② サポステ短期合宿プログラムの運営
- ③ 若者森の居場所プログラムの企画、運営（New）

8. 国際ボランティアの受け入れを通じた、国際協力事業

- ① インターンシッププログラムと、Green Festa Project を通じた支援の実施

9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業

- ① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作

10. ソーシャルプロモーション事業

H27 フィールド整備方針

フィールド整備スケジュール、フィールド計画は別紙参照。

創造の森 (里山 面積：0.4ha)

あさひが丘 (里山 面積：0.6ha)

竹原 (竹林) (竹林 面積：2.1ha)

竹原 (里山) (里山 面積：2.5ha)

希望の丘 (里山)

美里学園の森・バリアフリーの森 (益子町) (予定)

わんぱくの森 (宇都宮市) (予定)

おばけの森 (市貝)

1. 社会貢献活動拠点づくり事業

Conservation Corps プログラムの終了後、次のステップに向けて準備をするメンバーに、オフシーズンに明在庵を拠点として活用してもらおう。活動の場の提供や、実現したいことへのサポートもできる限り行う。

2. 若者による、森林、自然環境、地域再生活動、Tochigi Conservation Corps の実施

① Tochigi Conservation Corps 2015 春	
期 間	平成 27 年 4 月 20 日 (日) ～ 7 月 11 日 (金) 3 ヶ月
目 的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内 容	プログラム中の活動、作業内容 1. 風と緑の幼稚園 創造の森整備事業 2. あさひが丘の整備 3. 竹原竹林整備 (森林山村多面的機能) 4. 希望の丘の整備 5. 美里学園の森の整備 (予定) 6. 各種イベントの運営、参加 7. 学習・技術研修
参 加 者	全期間参加者 3 人

	参加者：アジアからのメンバーは、日本語初級も可とする 部分参加者 延べ 20 人（部分参加者、週末ボランティア）
場 所	宇都宮市、茂木町、市貝町、益子町
事業目標と成果	各フィールドにおける、達成目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるように研修なども充実させていく。

② Tochigi Conservation Corps 2015 秋	
期 間	平成 27 年 9 月 14 日（月）～12 月 3 日（木） 3 ヶ月
目 的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内 容	プログラム中の活動、作業内容 1. 風と緑の幼稚園 創造の森整備事業 2. あさひが丘の整備 3. 竹原竹林整備（森林山村多面的機能） 4. 希望の丘の整備 5. 美里学園の森の整備（予定） 6. わんぱくの森の整備（予定） 7. 各種イベントの運営、参加 8. 学習・技術研修
参 加 者	全期間参加者 5 人 部分参加者 30 人
場 所	宇都宮市、茂木町、市貝町、益子町
事業目標と成果	各フィールドにおける、目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるように研修なども充実させていく。

3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業

① 森林山村多面的機能発揮対策交付金活動	
期 間	平成 27 年 6 月上旬 ～ 平成 28 年 1 月中旬
目 的	荒れた竹林の整備と竹原地区の活性化に向けて、ボランティアと共に年間を通じて活動。森林・竹林・里山を整備する仲間の会の皆様のご協力を得て実施。
内 容	Conservation Corps プログラム、週末ワークキャンプなどを組み合わせて竹林 2.5ha、里山 2.5ha を整備する。空間利用プログラムは、幅広く広報して参加者のすそ野を広げるほか、若者支援団体とも協力し実施。
参 加 者	作業ボランティア 延べ 300 人 空間利用プログラム 4 回×10 人
場 所	茂木町竹原地区
事業目標と成果	整備の質を追求し、ボランティアでもこれだけできるということをアピールする。

③ 幼稚園や福祉施設での森づくりと体験イベント	
期 間	平成 27 年 4 月 ～ 平成 28 年 3 月
目 的	これから森林や里山を守っていくためには、森の整備を進めることと同時に、現代に合った形で森に価値を付加していくことが大切である。森林と福祉、森林と教育など森の役割を高める活動を形にしていく。
内 容	森の中での自然体験活動、幼稚園等に出前して自然体験プログラムの実施など
参 加 者	運営は Conservation Corps 参加者を中心に。 参加者は、幼稚園児、福祉施設利用者など
場 所	創造の森、子どもの森、美里バリアフリーの森など
事業目標と成果	安定したプログラムと仕組みの開発

④ 企業・グループボランティアの受け入れ	
期 間	平成 27 年 4 月 ～ 平成 28 年 3 月
目 的	「誰でもできる森づくり」の枠を広げ、積極的にグループの活動を受け入れる。企業の新人研修などの研修プログラムも組み立て、新しい形での森の中での人づくり、森林ボランティア活動による人材育成に力を入れる。

	森づくりの担い手を増やすことも目指す。
内 容	企業などの団体、グループの受け入れを行う。要望に応じた研修内容もプログラムに組み込む。
参 加 者	作業ボランティア合宿 1回 15人×4回 ① 株式会社 日油 4月 8-10日受入予定 ② 株式会社 ホンダトレーディングも可能性あり その他、年内に2回実施する。
場 所	茂木町竹原地区、他
事業目標と成果	参加団体、企業の活動実施に対する期待と、森づくりの効果をバランスよくみて成果とする。研修プログラム、メニューの充実を図る。

⑤ 親子向け、自然活動の企画運営	
期 間	平成 28 年春、夏の年 2 回
目 的	避難家族向けの自然活動の参加者層を広げて、幅広い参加者が集まれる仕組みをつくる。
内 容	他団体にも協力してもらい、自然活動を企画する。楽しくて役立つような内容をつくる。1泊2日 2回開催
参 加 者	1泊2日：各回8人 計16人参加
場 所	明在庵+市貝町、茂木町
事業目標と成果	

⑥ 竹林整備の加速と、竹材を使ったワークショップの実施	
期 間	平成 27 年 7 月～平成 28 年 6 月
目 的	竹林の整備を加速させ、竹の活用を広げるために、整備とワークショップを組み合わせたプログラムを実施する。ビギナー向けのプログラムと位置付ける。
内 容	竹の整備作業、竹を使ったクラフトワークショップなど
参 加 者	8人×2回×12ヶ月=192人
場 所	宇都宮市、益子町、那須烏山市を予定
事業目標と成果	竹のクラフトに人気ができる。クラフトの技術やワークショップの質を高め、多くの人が竹の現状について知り、竹細工の楽しさを知る。
備考	緑と水の森林ファンド助成金申請中

4. リーダー養成事業

① 若者森づくりボランティア養成と森林ボラ団体マッチング事業	
期 間	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
目 的	<p>将来にわたり日本の豊かで美しい森林、里山を保全していくためには、森林、里山ボランティア活動の継続、発展は不可欠である。森林ボランティア団体は年々増加しているが、ボランティア参加者の 51%は 60 才以上というのが現状で、活動団体の多くは、「高齢化」、「後継者不足」の課題を抱えている。</p> <p>この課題を克服するためには、若者を活動に巻き込み、担い手としての力をつけ、団体にマッチング（派遣）し、協力して活動を運営していくことを支える、という仕組みが必要である。</p>
内 容	<p>活動（ステップ）① 若者の森林・里山ボランティア活動の機会を増やす。参加者を増やす。（裾野を広げる）</p> <p>活動（ステップ）② 若者トレーニングプログラムの実施（担い手を増やす、力をつける）</p> <p>活動（ステップ）③ 団体向け「若者と上手く活動するための研修」を実施</p> <p>活動（ステップ）④ 若者と団体のマッチング機会（派遣）を作る。若者が団体で活動を始め、フォローする</p>
参 加 者	トレーニングプログラム参加者 21 人
場 所	益子町及び県内各地
事業目標と成果	<p>活動 1 若者ボランティアが森林・里山ボランティア活動に参加（長期、短期プログラム）年間延べ 1,300 人</p> <p>活動 2 若者向けトレーニングプログラムの実施 3 回開催 21 人が参加</p> <p>活動 3 団体向け「若者と上手く活動するための研修」を実施 1 回開催 5 団体が参加</p> <p>活動 4 若者と団体のマッチング機会をつくる 3 団体に、6 人がコミット</p>
備考	地球環境基金助成事業

5. 災害からの復旧、復興に関する事業

① 福島県いわき市での、海岸林再生事業	
期 間	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月
目 的	いわき市の美しい海岸林の再生に向け、市民の力を集め活動を行う。海岸林の清掃や整備、市民の寄付を集め、市民に苗木を育ててもらい植林を行う。
内 容	海岸林の清掃、整備は毎月定期的に行う。『苗木 for いわき』プロジェクトは、寄付を集める仕組みづくり、子どもたちや障がい者など、現場での復興支援活動がなかなかできない人達を中心に苗木を育ててもらい、それを海岸に植林する。誰もが

	震災からの復興に貢献できる仕組みをつくる。活動への参加を通じて、市民の主体的な地域づくり、防災意識の向上を図る。海岸林整備活動を通じたいわき市と避難者の友好関係の構築にも取り組む。
参加者	1,500人
場所	いわき市及び栃木県
事業目標と成果	植林する苗木 8,000本 海岸林整備 2,5ha 参加ボランティア 1,500人 協力団体 計100 寄付総額 1,500,000円
備考	ユースチャレンジプログラム助成事業

6. バイオマス資源の活用推進に関する事業

① 木エクラフト教室、木エクラフトを活用した応援会員の獲得	
期間	平成27年5月～平成28年2月
目的	木材の有効活用を進めるとともに、地元の木の良さを楽しめる木エクラフトを通じて知ってもらえる機会をつくる。
内容	森林、里山の整備で出た木材を活用し、木エクラフトキットを制作。木エクラフト教室を定期開催するとともに、栃木県森づくり応援寄付と連動した木エクラフトキットを制作。
参加者	木エクラフト教室 6回×10人=60人
場所	トライ東
事業目標と成果	整備作業→材料搬出→乾燥→パーツ作りを仕組み化する。 木エクラフトキット制作 100セット

7. 若者の自立支援団体と連携による、人と緑を育む森づくり事業

① 若者自立支援団体向け短期合宿プログラム事業	
期間・時期	平成27年5月～平成28年2月
目的	若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプ

	プログラムを構築。
内 容	栃木県若年者支援機構の集中訓練プログラム合宿として3回実施する
参 加 者	1. 6人×3回=18人
場 所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的效果のまとめ、検証、ノウハウ化

① 森の居場所プログラムの企画、運営 (NEW)	
期間・時期	平成27年5月～平成28年3月
目 的	ひきこもっていたり、なかなか外にでることができない若者のための居場所づくりを森で行う。気持ちの良い森の空間の中で、心を大きくし、少しずつ他の人にもなれるような時間をつくる。
内 容	週1日2時間程度、森の居場所を開催。参加する若者は基本的に自由に過ごしてよいとするが、時折森のイベントもやってみる。
参 加 者	主に、栃木県子ども・若者・ひきこもり総合相談センターの若者
場 所	あさひが丘、または子どもの森
事業目標と成果	各回8人の参加者を得る。居場所から次のステップに進む若者が出る。

8. 国際ボランティアの受け入れを通じた国際協力事業

Conservation Corps プログラムへのアジア人ボランティアの受入。計4名。

① Green Fiesta プロジェクトの支援	
期間・時期	平成27年5月～平成28年3月
目 的	昨年度1～2月にインターンで働いていた Jessa（フィリピン）の関わる活動、Advocacy, Restoration and Research の支援と通して、フィリピンの活動との連携。 (Jessa は大木本と EarthCorps で働いていたメンバーの一人)
内 容	Green Fiesta プロジェクトへの寄付を呼びかけ、日本でもプロモーションを行う。フィリピンの森、環境の現状を知ってもらう機会にもいかす。
参 加 者	ボランティアに寄付を呼びかける。

場 所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	寄付額 390,000 円

9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業

① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作	
期間・時期	平成 27 年 11 月～28 年 10 月
目 的	今後の Conservation Corps プログラムの発展に必要な参考資料となる米国 Conservation Corps の調査研究を行う。
内 容	研究成果を、運営マニュアルにまとめる。大木本が EarthCorps で得た知見をマニュアルにいかす。マニュアルは冊子にして、配布、ダウンロードできるようにする。
場 所	事務局
備考	とれれば、ボーイング社助成事業

10. ソーシャルプロモーション事業

① 会報誌の発行・ボラ募集情報の発行	
期間・時期	会報：4 月、7 月、11 月、1 月 （年 4 回発行）
目 的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。環境分野で活動する人のインタビューなども記事とし、読み物としての面白さも高める。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・研究、論文の発信 ・参加者募集や関連情報の発信
受 益 者 数	会員及び協力団体、発行部数 80 部程度
場 所	事務局

② メールマガジンの発行	
期間・時期	毎月発行
目 的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。参加者募集などの広報としても。

内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信 ・寄付やネットのできる応援などの呼びかけ強化
受 益 者 数	メールマガジン購読者数
場 所	事務局

③ ホームページの管理、更新

期間・時期	通年
目 的	タイムリーな情報発信と、活動報告、ボランティア募集等幅広く。ボランティア募集、寄付募集ページの改訂は6月まで。その他のページは8月中旬までに完成。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信
受 益 者 数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：神、(大木本)
場 所	事務局

④ その他のサイトの管理、更新

期間・時期	通年
目 的	タイムリーな情報発信と、活動報告、寄付のやりとりなどを幅広く行う。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・CANPAN (CANPAN ペイメント含む) ・Links for GOOD ・Gooddo ・しえあわせ Web ・Just Giving
受 益 者 数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：大木本
場 所	事務局

⑤ インターネットを使ったボランティア広報強化

期間・時期	通年
目 的	タイムリーな情報発信と、対応を通して、多くのボランティアに呼びかける。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアプラットフォーム

	<ul style="list-style-type: none"> ・とちぎのエコもり ・CANPAN ブログ ・他のサイトも検討を行う
受 益 者 数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：神
場 所	事務局

② 講演講師、研修講師の派遣

期間・時期	声をかけていただいた中で判断。社会の役に立てる内容であれば基本的に受けていく。
-------	---

⑥ シンポジウムの開催

期間・時期	10月
目 的	「若者と環境」、「グリーンカラージョブ」、「Conservation Corps」のいずれかの内容で、活動の必要性等を発信する。
内 容	Conservation Corps プログラムの報告会以外に、取り組みについて発信できるようなシンポジウムを開催する。
受 益 者 数	50人
場 所	宇都宮市内（ぽぽらを想定）

その他

ファンドレイズイベントの開催

期間・時期	5月、11月
目 的	活動を持続的、発展的に行うための財政基盤を強化するために、ファンドレイズの新しい仕組みをつくる。
内 容	米国 EarthCorps のファンドレイズイベントを参考に、有効なイベントを作りこむ。 5月は寄付ハイクを通して、呼びかけを強化。 11月は他環境保全団体と協力したファンドレイジングイベントを行う。（例 環境RUN）
場 所	宇都宮市内